

日本共産党埼玉県議団ほっとNEWS

NO. 13

2011年8月19日 日本共産党埼玉県議団 048-824-3413

日本共産党埼玉県議団の柳下礼子団長は、8月19日知事の教科書採択に関わる発言について、以下のような談話を発表しました。

中学校歴史教科書の採択に関する知事の発言について(談話)

中学校の歴史教科書について、上田知事は16日の定例記者会見の場で「間違っても『伊藤博文射殺』などと書いている教科書を選んではいけない」「日本は誇りを失い、自信をなくさせる教科書ばかりだ。しかし、そうでない教科書も出てきた」などと私見を披露したと報じられました。翌日の報道では、県立伊奈学園中学校で使用されている教科書に「伊藤博文射殺」との記述があることも報じられています。

これらは事実上、先の侵略戦争を美化する「新しい歴史教科書をつくる会」の流れをくむ自由社・育鵬社の教科書の採択を暗に求める発言であり、教育への重大な介入と言わなければなりません。

戦後の教育法体系は、学校教育が先の侵略戦争に若者たちを駆り立てた痛苦の教訓から、行政の教育への介入を極力排し、教育の中立性を保持するよう求めてきました。

この立場から、我が党県議団は県教育委員会に対して、教科書採択に当たっては、不当な圧力に

屈することなく、日本国憲法と教育基本法の全体

の理念に従って公正公平に採択するよう要請したところでは、

今年も原爆の日、終戦記念日の場において、埼玉県民はもちろん日本中が「戦争は二度と繰り返さない」という新たな思いを胸に誓いました。上田知事は、こうした県民の切実な願いを真摯に受けとめ、先の発言を撤回し、二度とこのような教育への介入は控えるべきだと考えます。

教科書採択の県教委は25日です。

県教委に県民の声をお寄せください。

a6610@pref.saitama.lg.jp

Fax 048 - 830 - 4950 (;県教育局総務課)